

事務事業評価シート

1 基本情報

		事業番号	010101021400		事業の種類	1			
年度	23	事務事業名	育児等健康支援事業		予算事業名	育児等健康支援事業 重要度 3			
まちづくり目標		健やかな成長と人間力をのばせるまち		担当部局名	健康福祉部健康介護課				
施策名(中)		子どもを産み、育てやすい環境をつくる		担当課長	小西 まこと		担当者名	三木 由紀	
取組み事項		子育て支援サービスを充実する		実施計画への記載	無		主要事業の指定	無	
実施計画事業名									
根拠法規及び関連法規		母子保健事業							
事業の目的	誰のために(具体的に)	妊婦、乳児並びにその保護者							
	誰(何)を対象として	妊娠届のあった妊婦、乳児並びにその保護者							
	意図(どのような状態にしたいのか)	健やかな母子の育成							
事業の全体年度		事業着手年度			(年度)	事業完了予定年度			(年度)

2 事業の概要 Do

実施の概要		妊娠届時に母子健康手帳を交付する。栄養士による離乳食についての講話及び個別相談並びに離乳食の調理実習・試食を実施				
活動実績	項目	単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度計画
	離乳食教室	人	204	221	216	220
	母子健康手帳の交付	冊	226	251	234	230

3 投入資源

会計区分		一般会計			事業費単位:円				
インプット指標		21年度決算	22年度決算	前年比	23年度決算	前年比	24年度予算	前年比	備考
人員	部長以上職員	0.025	0.026	104	0.024	92	0.026	108	
	参事以下職員	0.335	0.335	100	0.336	100	0.376	112	
	臨時職員	0.016	0.016	100	0.016	100	0.016	100	
支出内訳	人件費	3,003,869	2,985,055	99	3,005,656	101	3,228,572	107	
	事業費	291,835	249,500	85	257,031	103	541,000	210	
	合計	3,295,704	3,234,555	98	3,262,687	101	3,769,572	116	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他			-		-		-	
	一般財源	3,295,704	3,234,555	98	3,262,687	101	3,769,572	116	
合計	3,295,704	3,234,555	98	3,262,687	101	3,769,572	116		

※ 事業の進捗状況

		事業費単位:円			
項目	21年度	22年度	23年度	24年度	
全体進捗率	事業費累計				\
	進捗率				

4 評価指標

【有効性】

指標名1		教室参加率							
指標説明(式)		教室参加人数÷対象者数							
指標単位	区分	21年度	22年度	前年比	23年度	前年比	24年度(計画)	前年比	備考
%	目標	100	100	100.0	100	100.0	100	100.0	
	実績	94	96.5	102.7	96	99.5	\	\	
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	21年度	22年度	前年比	23年度	前年比	24年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

【効率性】

指標名1		教室1回あたりの事業コスト							
指標説明(式)		総費用/開催回数(H21~23は、年6回、H24は、年12回)							
指標単位	区分	21年度	22年度	前年比	23年度	前年比	24年度(計画)	前年比	備考
円	目標			-		-	314,131	-	
	実績	549,284	539,092	98.1	543,782	100.9			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	21年度	22年度	前年比	23年度	前年比	24年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(23年度実績) Check

評価視点	具体的な評価視点	評価コメント及び現状認識	担当課評価
妥当性			
有効性	成果目標(改善)達成度	教室は、4か月児健診受診者ほぼ全員が参加するため、4か月児健診時にブックスタート事業、離乳食教室を同時開催し、魅力ある事業にすることで、離乳食教室への参加率も増加する。	4
	関係(根拠)法令から見た効果	適齢年齢に合わせての実施により、乳幼児の健全な育成と母性の心身負担軽減が図られた。	
効率性	執行体制の効率性	効果的な体制、方法で事業を推進しているが、離乳食教室後のフォローが必要。	4
	コストの節減	必要最小限のスタッフで運営しており、コスト削減に向け更なる工夫に努める。	
進捗状況	事業計画に対する進捗状況	事業は、問題なく進んでいる。	4

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価視点	内容
効率性	手段の最適性	現在の離乳食教室は試食のみだが、アンケートより調理実習の希望が多い。また離乳食が実際に始まり保護者の不安も多い。



7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた24年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価視点	内容
効率性	手段の最適性	新たに6~7か月児の保護者(希望者)を対象に調理実習も加えた離乳食教室を実施する。

配点	25
総合評価	18